宮寺小だより

かしこく　なかよく　たくましく

令和６年度　第５号
８月26日　児童数２２２名
入間市立宮寺小学校
入間市宮寺594-1　電話2934-2014

きれいなことば　～目標を持って努力することで学ぶ～

宮寺小学校　校長　塩沢　栄一

２学期が始まりました。今年の夏休みも暑い日が続きました。ご家庭では工夫されての毎日であったと思います。私はパリオリンピックで日本選手の活躍にたくさんの拍手をおくりました。始業式には、子供たちに埼玉県出身の2人の選手を紹介します。

元木　咲良　選手(レスリング)

小学校の卒業式で「オリンピックに出て、人々に感動を与える人間になりたい」と宣言し、同じ種目でオリンピックに出場したことがあるお父さんを追いかけて、一生懸命練習し、金メダルを獲得しました。「いろんな人の力を借りて、支えてもらい、金メダルを取ることができて本当にうれしい。たくさんの人にお世話になった。みんなに分けてあげたいくらい大きなメダル。」と語っていました。

佐藤　拳太郎　選手(1600m リレー)

アジア記録を出したが3位とは2秒50差の6位。「本気でメダルを狙いにいったからこそ、すごく悔しい。全員まだまだ弱い」と涙した。「このタイムでメダル争いすらできず、私たち4人は400m選手として弱いと強く感じている。ここからまだまだ成長したい。その足掛かりにはなると思う。」と語っていました。

これまでも、子供たちには、いろいろな場面で「夢や目標を持って、力いっぱいがんばろう」と話してきました。努力することで、目標を達成することは大きな喜びです。それに対して、達成できなかったという悔しさから学び、次の目標を持って努力することも大きな力となります。2学期も目標を持ってがんばろうと、子供たちに伝えます。

校長の学び「今月の読書」

「不動心」とは、「決して乱れぬ心」のことではない。「不動心」とは、「乱れ続けぬ心」のこと。すなわち、われわれ経営者やリーダーに求められる「不動心」とは、どのように危機が起こり、いかなる問題が生じても、「心が微動だにせぬ」という意味での「不動心」ではない。生身の人間である限り、一瞬、心が大きく揺らぐことがあってもよい。しばし、穏やかならぬ状況に陥ってもよい。その直後、心が戻っていくべき場所を知っていること。それが経営者やリーダーには、問われる。　**「教養を磨く　宇宙論、歴史観から、話術、人間力まで」　田坂　広志**

子供たちのがんばり、先生方のがんばりを毎日見ています。今、手を出さなければ、声をかけなければといった場面に出会います。落ち着いて、手を出し、声をかけることを心がけます。